

黄粱夢

芥川龍之介

青空文庫

盧生ろせいは死ぬのだと思つた。目の前が暗くなつて、子や孫のすすり泣く声が、だんだん遠い所へ消えてしまふ。そうして、眼に見えない分ふんどう銅が足の先へついてでもいるように、体が下へ下へと沈んで行く——と思つと、急にはつと何かに驚かされて、思わず眼を大きく開いた。

すると枕もとには依然として、道士どうしの呂翁ろおうが坐つている。主人の炊かしいでいた黍きびも、未だいまに熟さないらしい。盧生は青磁の枕から頭をあげると、眼をこすりながら大きな欠あぐび伸をした。邯鄲かんたんの秋の午後は、落葉おちばした木々の梢こずえを照らす日の光があつてもうすら寒い。

「眼がさめましたね。」呂翁は、髭ひげを噛みながら、笑えみを噛み殺すような顔をして云った。

「ええ」

「夢をみましたろう。」

「見ました。」

「どんな夢を見ました。」

「何でも大へん長い夢です。始めは清河せいかの崔氏さいしの女むすめと一しよになりました。うつくしいつつましやかな女だったような気がします。そうしてあく明る年、進士しんしの試験に及第して、渭南いなんの尉いになりました。それから、監察御史かんさつぎよしや起居舎人ききよしゃじん知制誥ちせいこうを経て、とんとん拍子ちゆうしよもんかに中書門下平章事へいしようじになりましたが、讒ざんを受けてあぶなく

殺される所をやつと助かつて、かんしゅう 驩州へ流される事になりました

た。そこにかれこれ五六年もいましたろう。やがて、えん 冤を雪ぐ事

が出来たおかげでまた召還され、ちゅうしよれい 中書令になり、えんこくこう 燕国公に

封ぜられました。その時はもういい年だったかと思ひます。子

が五人に、孫が何十人とありましたから。」

「それから、どうしました。」

「死にました。確か八十を越していたように覚えていますが。」

ろおう 呂翁は、得意らしく髭を撫でた。

「では、ちようじよく 寵辱の道もきゆうたつ 窮達の運も、一通りは味わつて来た

訳ですね。それは結構な事でした。生きると云う事は、あなたの

見た夢といくらも変つてゐるものではありません。これであなた

の人生の執しゅうじやく着も、熱がさめたでしょう。得喪とくそうの理も死生の情も知って見れば、つまらないものなのです。そうではありませんか。」

盧生ろせいは、じれったそうに呂翁の語ことばを聞いていたが、相手が念を押すと共に、青年らしい顔をあげて、眼をかがやかせながら、こう云った。

「夢だから、なお生きたいのです。あの夢のさめたように、この夢もさめる時が来るでしょう。その時が来るまでの間、私わたしは真まことに生きたと云えるほど生きたいのです。あなたはそう思いませんか。」

呂翁は顔をしかめたまま、然しかりとも否いなとも答えなかつた。

(大正六年十月)

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集2」ちくま文庫、筑摩書房

1986（昭和61）年10月28日第1刷発行

1996（平成8）年7月15日第11刷発行

底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房

1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力：平山誠、野口英司

校正：もりみつじゅんじ

1997年11月10日公開

2004年3月12日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

黄梁夢

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>